

ゆらの通信

Vol.24
平成28年11月



2004年3月21日 植



2016年11月20日 大きく育っていく林

会員の皆さんはじめ、たくさんの方に支えられながら育っていく由良野の森。12年前に植林した荒地は今、こんなに成長した森になりました。自然と人が共生する里山を思い描いて活動を始めて13年目。木々が育つのに必要な時間を実感しています。この8月は渇水による断水が過去最長の28日つづき、今年植えた木の苗は半分が枯れてしまいました。自然に合わせた生活から感じ学んだことは多くありました。水や空気、太陽の力。人は自然の環の一部なのだと思います。日々です。「ゆらの」が更に発展していけるよう、役員会でNPO法人化を進めることが決まりました。活動や運営などが大幅に刷新され、多くの方に参画していただく予定です。わくわくホッとできる活動を一緒にやってみましょう。



由良野のオオモミジ
写真提供は会員の葛原清則さん

2016年4月26日 障がい者支援施設パステル工房さん ヨモギ摘み

春4月。地元久万高原の障がい者支援施設パステル工房のみなさんが新芽のヨモギ摘みにこられました。ほとんどが車が入らない森で摘んだヨモギはアク抜きしたあと冷凍。パステル工房でおいしいクッキーやショートブレッドに使われます。森の草刈りやゲストハウスのお掃除にも来ていただきました。



2016年5月2日 ヤギ散歩のお手伝い。

ゴールデンウィーク中に滞在された会員さんには羊毛のお仕事を手伝っていただきました。天気が良ければエサ用の草集めやおいしい草を食べにお散歩へも連れ出させていただきました。



2016年5月3日 子羊マロン誕生

小雨の夕刻。羊たちのもとへエサの草を運んでいた会員さんが発見！子羊が生まれてました。母子とも元気そうで安心。産まれた子羊のメス。会員さんからメイ・みどりなどのなまえが寄せられました（ありがとうございます！）。長く飼っていたペットが亡くなった話をして下さった会員さんの話があまりに印象的でしたので、その名前を頂くことにしました。亡くなったペットはイモリで、本当なら寿命数十年のところ岩のすきまにはさまったのが原因で、死んでしまったのですが、なんとその日にマロンが誕生。って言う物語。由良野の池にもたくさんいるのですがイモリがそんなに長生きとは知りませんでした。さすが「井の守」！



2016年5月4日 All day about 縄文！ 第1部 遠部慎学芸員のおはなし。

由良野の森がある久万高原町には標高500～1000メートルの山なみに縄文～弥生の遺跡が点在します。その中でも上黒岩遺跡は世界でも唯一の女神像を刻んだ線刻礫で注目されています。教育委員会で考古館学芸員の遠部さんから、一体全体縄文時代とはどんな時代なのか伺いました。教科書で習ったよりもずっとおしゃれな衣服？広範囲な交易？ごちそうかも？そして1万年続いた平和な時代。自然と共生した社会だったことから私たちが今、学べることが多い気がしました。



カチ栗もかじってみる

2016年5月4日 第2部 火おこし体験 いのしし炭火焼 などなど

お昼タイムは火おこしに挑戦！！ 苦戦の末あきらめムードの中、お父さんたちがなんとかやりとげました！がんばった火はサイコーのうれしさ♡ 思わず歓声！子どもたちも頑張った！！久万山でとれたイノシシも大好評で頂きました！縄文の人たちも楽しく食べたはず！



縄文の子孫たち。

いや～熱心だった

2016年5月4日 第3部 「インディアンの言葉、朗読とうた by 里美さん

森や海、全ての生きものたちと共存する生き方を模索するうたい手 里美さんをむかえて「インディアンの言葉」を聴きました。1万年の旅路 物語をつなぐ人々 北米インディアンは遠い昔の祖先を、私達と同じくするかもしれません。自然と共に生きることを先住民や縄文の人たちに学びます。歴史を学ぶ意味が少しわかったかも。

エスキモーの伝説

はじまりのとき、人間と動物の間にはちがいはなかった。その頃はあらゆる生き物が地上に生活していた。人間は動物に変身したいと思えばできたし、動物が人間になるのもむずかしくはなかった。たいしたちがいはなかったのだ。生き物は、ときには動物であったし、ときには人間であった。みなが同じ言葉と話していた。その頃は、ことばは魔術であり、霊は神秘的な力を持っていた。でまかせに発せられたことばが霊妙な結果を生むことさえあった。ことばはたちまちにして生命を得て、願いを実現するのであった。願いをことばにするだけでよかったのだ。しかし、説明するとだめになる。



2016年5月9日 マロン

産まれて7日目のマロン。子羊はぬいぐるみが歩いているよう…。
母子ともに元気です。



柵をくぐり抜け森を歩きまわる親子
「自由よ、私たち！」
ここはどこ？



2016年5月14日・15日 劇団ヴォイス野外劇 「なりきり王子」

劇団Voice、由良野の森で3回目の野外公演です。「真夏の夜の夢（2006年）」「お気に召すまま（2013年）」に続き今年も、名作王子と乞食と、SF作家星新一さんのショートストーリーを合わせた創作劇。二神団長さんのウィットにとんだセリフと団員みなさんの熱い演技が素晴らしかった！夜昼、2回公演の長丁場、ありがとうございました。森の中できりひろげられるゆかいな劇に、観ている人はみな笑いにつつまれました。あ～笑った！



名演技の二人



家政婦レベッカ！！(^▽^)/



せり上がる舞台装置登場！

2016年5月27日から5月29日 連続・草講座 全国ハーブフェスティバル協賛企画

『草』にまつわるワークショップを5日間連続で開いて下さったのは、葉山在住の矢谷左知子さん。久万高原で開催された日本ハーブソサエティの総会とフェスティバルに合わせて企画しました。矢谷さんは、長く染織作家として活動されたのち、ここ10年ほどは染織から植物の世界を探求しています。今回は『草にまつわるお話』『草から糸を作る』『草の色を布に移し替える』一日ワークショップに続けて、初の試み『草合宿』。

葉山は海と森の接する町で、素潜りと森歩きが大好きで、人と自然の間をすりと行き来する左知子さん。物言わぬ草の世界の通訳者。由良野では毎回、手と心と頭を働かせて草と関わりました。私達の周りに何時もある植物。繊維や色や香りや、時に薬効など、私達の知らない世界がそこにあることを感じながらの5日間でした。



ヨモギ染めに満面の笑み



2016年5月30日・6月1日 草合宿・・・草と遊ぶ人々

今回、左知子さんも初の試みという、『草合宿』。

どんなことが起こるのか?? 矢谷さんが由良野の森で滞在されるなかで生まれてくる・・・そんな感じで湧き出るように始まりました。

参加者の皆さんは、広く県外からも来られていて、会場のゲストハウスでは『草にまつわる話』が始まりました。草、のキーワードで集まった女子たち。

食事は、西条のまんがら農園産の野菜と由良野の森の野草や桑の葉のパンなど。心も体も森を感じる一泊二日。二日目のワークショップでは皆さんが森に入って、思い思いの草を身にまとい『草と遊ぶ』時間となりました。昼には写真のような草族の誕生!! 童心に戻る。

幼いころに野原で遊んだ思い出。草も花も人も一緒に遊んでる。なんて素敵。

忘れていたことを思い出す貴重な感覚が引き出された合宿でした。童心に戻った参加者の皆さんの草衣をご覧ください。

アフリカのエチオピア・オモ族の人は、実際に毎日、草花で身を飾るそうです。



2016年6月5日 松井先生がやってきた、Yeah!

NPO森へつづく道 代表の松井宏光先生をお迎えして「自然にとけこむ観察会」を開催しました。小雨の森を先生を歩くと、小さな子どもたちも大人も引き込まれるように…。いつもの森の草木が驚きと、ワクワクの連続で、全く違って見えてくる不思議。先生の楽しくウイットに富んだお話にどんどん引き込まれてしまいました。オオバコは、人に踏まれて種が散らばるように足元にびっしり生えていること。繊維になる繁殖力旺盛な葛。根っこは葛根と言って消炎作用のある薬なこと。踏まれてなんらかのにおいを発することで、先にお互い連絡?を採ってる草の話エトセトラ…。松井magicにかかった人続出。また来ていただきたいと思っています。逃した方はぜひ!



2016年6月5日 ゆらの人間学講座『五感を使って自然を感じることで生きる力を身につける』

午後は松井先生のお話を伺うことが出来る人間学講座。自然科学の分野からはなれて「普段感じていることや伝えたいこと」をお願いしました。愛媛植物研究会会長、愛媛の野草、薬草について本も出されている先生の考えておられる「生きる力」とは?

それは、五感、そして六感「なんかわからないけど、何となくそう感じる」という感覚で在ること。

手足を動かし、頭と心が動く体験を通して感覚を磨き出来るだけたくさんの経験をすることが、子どもたちを最終的に守るのではないかと話されました。

情報過多の時代。抗菌グッズ、消臭など過度の環境調節は子どもたちの安全を奪う気がする。他者への思いやり、やさしさしかり。野山で発見する喜びやはっとする感動を分かち合う、おとなの共感力が必要なんです。先生のお優しい笑顔にうなずきました。



2016年6月5日 ゆらの総会

今年は代表も理事の入れ替わりもあり、これからのゆらのをどう運営していくか? 今まで13年目の振り返りと同時に課題や解決策、新しい取り組みなどについても意見が交わされています。通信などでもお知らせしていきます。今後の動きにもぜひ皆様のご意見、ご参加、応援いただけたらと思っています。



2016年6月6日 子ヤギの様子など

5月28日に生まれた子ヤギのオス。生後すぐに後ろ足を痛めていることが分かって心配していましたが、随分と良くなり元気です。滞在していた矢谷左知子さんは無類の動物好き。左知子さんの命名で、草(そう)君となすけられた子ヤギ。乳ばなれも終わって大きな青年になった夏の終わり。久万高原の面河へもらわれていきました。



2016年6月26日 梅の頃・・・

由良野の森の小道に植えた梅の木が一齐に実をつけました。

梅干し、梅ジュース、梅酒。梅肉エキスなどこの時期は梅の仕事が大忙しです。

来年からはぜひ体験したい方も募集したいです。



2016年7月25日から 恒例の養蚕がはじまりました。

昨年はハッキョウ病という病気で半数近くを亡くしてしまったので、今年は予防策から。 何時もいろいろと教えて下さる県の元指導員・菊池さんさんのアドバイスを受けて石灰消毒を徹底しました。

ちょうどいろんな企画で森に滞在していた皆さんに手伝っていただいて全部繭になりました。ありがとうございました。

繭はこの後、冷凍してから天気の良い日に天日乾燥。



2016年7月31日 手打ちうどん体験

夏恒例の“由良野の森 手打ちうどん体験”の日。

今年で9回目になりました。

松山は衣山の手打ちうどん屋さん『うどん坊』の店主中塚さんご夫婦が今年も駆けつけてくださって、特製の出汁とねぎ、天かす、しょうがのおいしい釜揚げを堪能！

毎年前日から準備していただいていたものを、今年は粉と塩水をこねて寝かせる仕込みから習って準備万端。8キロの小麦を使いました。

先輩のわざと知恵を頂けることに感謝です。

うどんってこんなにおいしいの～？とうなる参加者さんたち。とび入りのお遍路さんにもお接待しました。

なんとさぬきの方でしたが（おいしい！）とお褒め頂きました。



2016年7月31日 由良野川の沢登り

おなか一杯の午後は、由良野川で沢登り体験を行いました。標高650メートルの由良野も夏の日中は30度を超す暑さ。仁淀川の源流の一つ、由良野川は樹々が覆っていて涼しい風が吹いています。夏には毎年アカショウビンがやってくることもある渓流です。水と石や風を感じ、五感をフルに使っての約700メートルの沢登り。手を出すのをぐっと我慢する大人たち、小さな子のお世話をする年長の子どもたち。夏の大事な体験です。



2016年8月6日～8日 ニライカナイの風 そして 星めぐり

1日目・蜷気楼マルシェと石垣昭子さんお話し会、内野加奈子さんの星めぐり

ずっと温めていた企画がとうとうこの夏実現しました。森の染織工房天月は沖縄の西表島で手仕事を習ったことから始まりました。石垣昭子さんはガイアシンフォニー第5番にも紹介されている染織家。紅露（クール）工房で、八重山の芭蕉布を復活したり、島の暮らしを丸ごと守って夫の金星さんと多くの若者を受け入れて来られました。今もエコツーリズム協会会長として、島の自然を守りながらいかに伝えるか…と精力的に活動するすてきな先達。ニライカナイの風、第一日目は蜷気楼マルシェ。

オーガニックなすてきな食べ物の数々。カレー、ローフード、野菜、工房Café。ジュースやコーヒーなど。工房では整体やマッサージも開店。

Keiho,じゅんかんLIVEも開催。



「じゅんかん」LIVE

ドキュメンタリー映像『島の色』の上映、『当たり前前の暮らしの話をしましょうね〜』で始まるお話し会。

竹富島のおばあさんの話、都会にあこがれて東京の美術大からOL時代。島に戻って改めて発見した島の当たり前前の暮らし。無くなっていた芭蕉の畑を再現して始めた西表島の工房。祭りや暮らしとつながっている女の手仕事。うない（女という意味）にとって手仕事を続けることは命を守るということだという話。

かまず、今を幸せに生きるということ……。昭子さんの静かな語りはたくさんのをわたしたちみんなに残しました。



ニライカナイの風 そして 星めぐり 2日目・芭蕉workshopと石垣昭子さんお話し会

ニライカナイの風、二日目は西表島の紅露工房の芭蕉畑から送っていただいた芭蕉の糸を使ってワークショップをしていただきました。ガイヤシンフォニー第5番西表編の上映、石垣昭子さんから芭蕉のおはなしを開きます。今回は生の（からんが）芭蕉実践をしました。



芭蕉の芯まですーっとはがれていく繊維。中心部のマブヤ（魂の意味）が出るとわ〜という歓声が上がりました。キラキラの芭蕉の糸ができました。



島の工房、一日森。

星めぐり by 内野加奈子さん

5日、6日と二日続けて夜は星めぐり。森の特別会場で、星の事を思い、宇宙を感じ、空を見る時間。草の上に寝転んで空を見上げる。ナビゲーターは、内野加奈子さん。大学を卒業後大好きな海の勉強をしたくてハワイに留学。先住民の航海術を復活させた、伝説のホクレア号。日本人初の乗組員としてハワイから日本まで旅した素敵な女性です。コンパスもない時代の太平洋を帆船で旅する技術には、星を見て位置を知る英知が使われています。今回はゲストハウスでお話しいただいた後、森で、曇りから一転、満天の星空になった特設「星めぐりの丘」（と命名されました）でじっくり星と自分と地球を感じました。



星めぐり
星の物語をたどる夜

2016/8/6 (sat) 8/7 (sun)

由良野の森
愛媛県上浮穴郡久万高原町二名乙 787-13
アクセス：由良野の森へ車を走らせてください

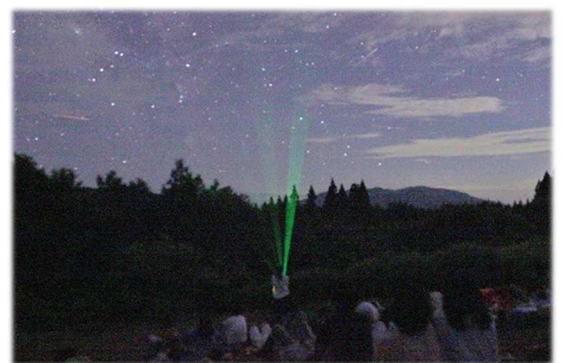
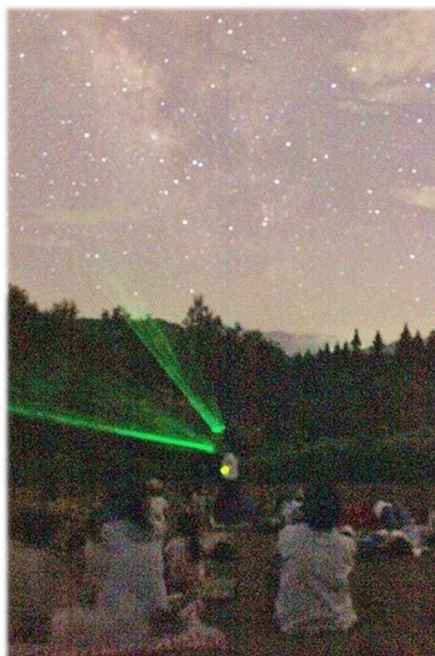
募集人数（限定 30名）
※要予約

参加費	19:00～ 星のお話
大人（高校生以上）	1,500円
小学生	300円
中学生	500円

19:30～ 星めぐり
赤灯のない由良野の森（標高約100m）の静けさの中で、内野加奈子さんのガイドのもと星をみます。加奈子さんの旅をきくと家族がストーリーになり、地球に立つ自分を想像できる不思議な体験です。※雨天は予定の場をキャンセルし、雨天時は雨天対応の場を指定いたします。

ナビゲーター 内野加奈子
ハワイ大学で海洋学を学び、ハワイ島海軍特別隊で、中心は艦長とクルーの間にあった。日本の航海術を復活させ、船を一人で航海する旅を繰り返す。航海術の伝承者として、アマチュア航海術の普及に努める。航海術の伝承者として、航海術の普及に努める。航海術の伝承者として、航海術の普及に努める。

お問合せ yurano@yuranoamer.jp Tel/Fax (0892)21-8076 NPOゆらの事務局(わしの)
☆主催/NPOゆらの ☆後援/久万高原町教育委員会・月草子会・上原天月



3日目 蚕の話と繭からの糸引きworkshop

最後の8月8日。午前中に昭子さんからお蚕さんにまつわるお話会をしていただきました。



いつしか、話はやっぱり女の暮らし、生き方、手仕事の力、当たり前暮らしに暮らすこと… にゆっくりとじんわりと広がり、ストーンとところに落ち着いていくのでした。

午後は、愛媛で養蚕を新規に始められた阿部さん家の繭を使って糸引きワークショップ。

養蚕の忙しいなか、阿部さんもサプライズで登場（ありがとうございます！）

糸引き女子??たちの熱心な仕事は、飽きないおしゃべりとともに夕刻まで続けました。（続けて夜中までやったひとも、ありがとう）。

アシスタントで西表の工房から来てくれていた崎原章子ちゃん、ありがとう！子どもたちを島に残して5日間サポートしてくれました。糸の扱い方、その後の使い方なども教えて頂き、丁寧でゆったりした時間が流れる、石垣昭子さんの世界にどっぷり浸かりました。

なんだか、四国の森が西表島の空間とかぶっているような、不思議な不思議な時でした。



8月8日 Hyotami LIVE

広島在住のミュージシャン Hyotamiさん。ニライカナイの風、最後の夜はこの人しかいない！という暑いコールにこたえて演奏に来てくれました。奄美大島にすんでいたこともあるhyoutajimiさん。

ひょうたんをこよなく愛す彼女の胸にも胎にも響く歌声に心が震えます。

Keihoさんとカレー屋さんのあっちゃんの特別出演。ギターと太鼓もありがとうございました。

素晴らしい音楽でした。

LIVEの終わりには、ヒョウタンの神様も登場して会場はなんだか不思議な気配に包まれました。

森の精霊たちもさぞや楽しんだことでしょう。

子どもたちも、沢山の大人も手をつないで輪になって、夏の森。3日間の参加者のべ300人！?のイベントが終わりました。



ヒョウタン神様！

2016年8月25日 夏の星空

夏の夜空。
街灯のともらない由良野の森。
大きな天の川がかかっています。



2016年8月28日 ヤギの様子など

群れの生き物なのですが、うちのオジョウは一人暮らしが平気なマイペースのヤギ。
子ヤギがいなくなって、のんびりとひとり楽しそうに草を食べてます。
好物は桑の葉。そしてこの写真はニセアカシア（ハリエンジュ）です。
山羊というだけあって、岩の上が大好き。草より木の葉が好きです。
この草がオジョウを介して毎日2リッターのミルクになる奇跡。



てんさい含蜜糖を入れて
コトコト煮る
MILK ジャム

2016年10月10日 自然にとけこむ観察会VOL2

NPO法人・西条自然学校の代表をされている山本貴仁さんをお迎えしました。
まずは森の工房前で自然を感じる静かなお話に始まり、自然を感じてみることから。
この後、ゆっくり森の中を歩きました。
子どもたちも色んな事を発見して、いつもの森がぐっと迫る時間になりました。



オアンバッタの顔がカワイイ！



アケビをたべてみる！



山芋の種を鼻にのせてみる

2016年10月10日 ゆらの人間学講座 『自然を知り、自然を活かす』

地質や地形から生き物や人の暮らしを見る。自然を科学的に捉えつつ感性を磨きたいという山本さん。一つ一つ観察と実証を積み重ねている山本さんの自然を見る科学魂と優しいまなざしの融合。森の再生は可能なのか？ 植林をしないで森がどう再生していくのか植生を観察中とのこと。一度なくなってしまった生態系がどうなるのか？どうするのか。私たちの関心は深まりました。



2016年10月16日 古代・瀬戸内の神話と沖縄の神歌

戦後、沖縄から愛媛大学に留学生として来て以来、四国にお住い。名護博先生をお招きしました。ノコと呼ばれる神様に使える女性が歌う神歌から、古い瀬戸内の神話を読み解くという独自の学説を唱えておられる名護先生。8月のニライカナイの風イベントがご縁でお越しいただきました。遠い昔、女性たちが平和に国を治めていた時代。瀬戸内から遠い竜宮（琉球）と交流があったことを神歌から詳しく説かれ、熱心な皆さんの質問にも丁寧に答えられました。先生の著書『赤椀の世直し』に詳しく書かれています。ゲストハウスに一冊頂いていますので、関心がおありの方はどうぞ。



オープニングには愛媛を中心に活躍のアーティスト・仙九朗さんと、二胡の素晴らしい演奏を聞かせてくれるなっちゃんのライブ。豪華なおまけつきでした。Special thanks!

2016年10月16日 第2回ツリークライミング体験 IN 由良野の森

ゲストハウスで古代の話が盛り上がり、熱い談義がまだまだ続く中。子どもたちと大人数人は森の中へ出かけました。今日は日本ツリークライミング協会の公認インストラクターでゆらの会員でもある福島えりさんと森本さんに教わる二回目のツリークライミング体験会。ハーネスをつけ、自分の力で大きな木の上へあがっていきます。木の高さから見る空や森は子どもたちにどう映ったのでしょうか？木に近づき、木をもっと好きになるツリークライミング。今回都合の合わなかった方も、も一回チャレンジ！と癖になった人もまた次回是非。



福島さんの優しく丁寧なガイドでスタート